

公共事業再評価調書

整理番号 H15 - 11

担当部課室名	農林水産部 農村整備課	電話番号	0 1 7 - 7 3 4 - 9 5 4 5
		E - MAIL	NOSONSEIBIKA @ags.pref.aomori.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続 (5 年)	再評価後 (年)	その他 ()
---------	-----	--------------	------------	---------

1 事業概要

事業種別	農業農村整備事業		事業主体	県 市町村 その他 ()			
事業名	県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	地区名等	庄内 2 期	市町村名	六ヶ所村		
事業方法	国庫補助 県単独	財源・負担区分	国 50%	県 42%	市町村 8%	その他 %	
採択年度	1 0 年度 (用地着手 1 1 年度 / 工事着手 1 1 年度)						
終了予定年度	1 7 年度 (1 4 年 3 月計画変更 当初計画時 1 4 年度)						
事業目的	本農道は、六ヶ所村の主要な農業地域を走る基幹農道であり、現況は、未整備狭小の砂利道となっていることから、これを整備し、また、これまで分断されていた「酪農の庄内」と「野菜の中志・倉内」の農地を結ぶことにより、農産物の流通の合理化と農作業の効率化を図るものである。						
主な内容	農道 L = 2 , 5 8 0 m (全体 L = 5 , 5 8 0 m)						
事業費	採択時総事業費		869 百万円				(単位:百万円)
		~ 12 年度	13 年度	14 年度	15 年度	小 計	16 年度 ~ 合 計
	計 画	100	169	150	60	479	353 832
	(うち用地費)	(34)	(1)	(1)	(0)	(36)	(37) (73)
14 年 3 月変更							
実 績	100	169	150	60	479	221 700	
(うち用地費)	(34)	(1)	(1)	(0)	(36)	() (36)	

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) ・ B ・ C

事業の進捗状況	事業費割合		計画全体に対する進捗		年次計画に対する進捗	
	(うち用地費)		68.4 % [/]		100 % [/]	
			(100.0 %) [/]		(100 %) [/]	
	主要工種毎割合 (事業費)	路盤工 (508 百万円)	(延長割合)	55 %	(延長割合)	100 %
	舗装工 (79 百万円)	(延長割合)	33 %	(延長割合)	100 %	
			%		%	
説明	計画全体に対する進捗が 68.4% と低いのは、軟弱地盤の対策に期間を要したためであり、この対策も H15 年度で終了するので来年度以降は予定どおり進捗できる。					
問題点・解決見込み						
事業効果発現状況	路盤工の完了により、通行が可能となった区間から供用を開始しており、既に事業効果の一部を発現している。					

(2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	【全国の評価】 農道整備については、農産物流通の合理化や農業の近代化を図り、併せて農村環境の改善に資することを目的としていることから、地域の特性を踏まえ農村環境との調和に配慮しながら、地域の中で重要度の高いものから順次整備していくことが必要である。	【県内の評価】 県内の農道舗装率は全国に比べて低い状況にあることから、地域農家の要望を反映させながら、引き続き計画的に事業を推進する必要がある。
	当地区における評価	本地区は「酪農の庄内、野菜の中志・倉内」と生産地域別で呼ばれてきたが、近年、特に畜産物の輸入拡大や産地間競争等に起因する価格低下などにより、畜産のみでは農業所得が不安定なため、全域でながいも等の高収益畑作物の増産に取り組んでいることから、流通の合理化と農作業の効率化を図る農道の整備が必要である。	
必要性	本地区はながいも、だいこん、ばれいしょなどの野菜を作付けしているが、幅員が狭小で、砂利道の本路線を改良するとともに、路線を受益地と農業用施設を効率的に結ぶように配置することにより、荷傷み被害の防止及び走行費節減が図られる。		(a) ・ b
適時性	<ul style="list-style-type: none"> 現在、主要地方道を使用し遠回りして野菜集出荷所等を活用しているが、迂回が解消され、走行費の節減、荷傷み防止が図られる。 本事業関係集落の経済圏が「千歳」集落であることから農村生活道路としても重要な路線となるので、早期完成が望まれている。 庄内地区が平成 1 5 年度で完了し、庄内 2 期地区も平成 1 6 年度までに路盤工を完成させ、全線を供用開始できる。 		(a) ・ b
地元の推進体制等	本事業の施行に当たっての受益者の同意率が、98.5% (H14 の第 2 回計画変更時、193 人 / 196 人) と高く、受益農家からは早期完成を期待されている。		(a) ・ b
効率性			

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A) ・ B ・ C

区分	主な項目	計画時	再評価時	増減
費用項目 (C)	(1) 農道工	1,312 百万円	1,159 百万円	153 百万円
	(2) その他経費	343 百万円	309 百万円	34 百万円
		百万円	百万円	0 百万円
		百万円	百万円	0 百万円
	総費用	1,655 百万円	1,468 百万円	187 百万円
便益項目 (B)	(1) 品質向上	352 百万円	352 百万円	0 百万円
	(2) 維持管理節減	13 百万円	13 百万円	0 百万円
	(3) 走行費節減	1,186 百万円	1,186 百万円	0 百万円
	(4) 一般交通等経費節減	127 百万円	127 百万円	0 百万円
	(5) その他	46 百万円	46 百万円	0 百万円
総便益	1,698 百万円	1,698 百万円	0 百万円	
B / C		1.02	1.16	
【費用対効果分析手法】 (分析手法、根拠マニュアル等) 農林水産省構造改善局長通達 (土地改良事業における経済効果の測定方法) 【費用対効果分析における特記事項】 本地区のB/Cの算定は、全体事業計画(庄内地区+庄内2期地区)で行っている。				

(4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A) ・ B ・ C

コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 ・ 法面保護において、厚層基材吹付工から植生マット工に変更し縮減を図っている。 ・ 盛土材を購入土から、庄内地区の現場発生材を利用して縮減を図っている。	(a) ・ b
代替案	【代替案の検討状況】 ・ 地盤の軟弱な区間の対策工法は、期間は要するものの最も経済的な盛土載荷重工法を採用しており、妥当である。 ・ 遺跡を迂回した線形計画としており妥当である。	(a) ・ b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A) ・ B ・ C

住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 受益者の同意率は98.5% (193人/196人) となっている。 また、事業の実施に当たっては、地元関係者に対して説明会を開催するなど、合意形成を図りながら進めている。	【住民ニーズ・意見】 農道から畑へ農耕車が容易に出入りできるように進入路の位置、形状について、農家のニーズを踏まえ、調整し理解を得て施工している。	(a) ・ b
環境影響への配慮	【地域別環境配慮指針への対応】 (1) 地域区分 <input type="text" value="K 6 a"/> (2) 対応状況 配慮している 配慮していない	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 配慮している 配慮していない	(a) ・ b
地域の立地特性	【特記事項】 切土部及び盛土部の法面を緑化し、自然環境に配慮している。 遺跡指定地を迂回した平面線形とし、埋蔵文化財に配慮している。 ・ 本事業計画の対象作物となっているばれいしょは野菜指定産地となっている。 ・ 酪農・肉用牛生産近代化計画 ・ 半島振興法		

3 対応方針

総合評価	継続	計画変更	中止	休止 (林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	本事業は、地域農業の振興や農村の生活環境の整備など地域に果たす役割が大きいことから、平成17年度の完了を目指し、継続して実施する。			
備考				

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり	対応方針(案)を修正すべき		
委員会評価	継続	計画変更	中止	休止 (林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見				
評価理由				